

令和7年度第2回「みえ現場 de 県議会」 離島の振興 ～「観光」による課題解決を目指して～ 実施概要

1 日時・場所 令和8年2月19日（木）14時00分～16時05分
伊勢湾フェリー 鳥羽フェリーターミナル 2階 多目的ホール

2 テーマ 離島の振興 ～「観光」による課題解決を目指して～

我が国全体で人口減少社会を迎える中、離島での人口減少と高齢化の進行は著しく、地域の活力の低下が懸念されています。

離島は、独自の伝統文化や豊かな水産資源など、多様性の源泉となっており、独自の魅力を生かして人を呼び込む可能性を秘めています。

今回は、島を支える産業の一つである「観光」に着目し、関係人口の創出など新たな視点で地域の魅力を高め、賑わいを取り戻す方策について、離島の住民や関係者の皆さんと意見交換を行い、県議会での議論に反映させていただきます。

3 参加者等

○離島振興法に規定の離島振興対策実施地域に指定されている島の住民・関係者 [5名]

《鳥羽市・答志島》 島の旅社推進協議会 スタッフ ^{はまぐち こうよ}濱口 浩代 氏

一般社団法人 離島未来舎 代表理事 ^{やました けんいち}山下 憲一 氏

《鳥羽市・神島》 寺田林右衛門本店 代表 ^{てらだ かつあき}寺田 勝昭 氏

《志摩市・渡鹿野島》有限会社 観光旅館福壽荘 会長 ^{きむら けいじろう}木村 圭仁朗 氏

渡鹿野区 区長 ^{ちやのみ じゅんぞう}茶呑 潤造 氏

○県議会議員（下線は広聴広報会議委員） [13人]

議長 服部 富男 広聴広報会議座長（副議長） 森野 真治

総務地域連携交通常任委員会委員長 芳野 正英

政策企画雇用経済観光常任委員会委員長 川口 円

広聴広報会議委員 市野 修平 荊原 広樹 伊藤 雅慶 市川 岳人 辻内 裕也

難波 聖子 喜田 健児 松浦 慶子 山内 道明

○傍聴者 17人

4 プログラム

(1) 開会あいさつ

(2) 参加者の紹介

(3) 関係者による「プロフィール」・「状況シート」の説明（自己紹介）

(4) 意見交換

(5) 閉会あいさつ

5 主な意見等

○事前質問

《参加者の取り組み（観光）》

インバウンドの受け入れ態勢について現状と課題を教えてください。

→インバウンドというほどのことはまだできていない。昨日も東京のアメリカンスクールから学生が来た。鳥羽市との連携の中でガイド育成をしている。若手スタッフが3年間勉強しているが、実際にやってみて、自分たちが英語で話ができないところに大きな問題があると感じた。本格的にインバウンドを受け入れることは、まだ態勢的には無理だと思う。今の時期は漁業の繁忙期で、スタッフ8名のうち半分はいない。4カ月離れるスタッフもいる。でもこれからはインバウンドも受け入れていかないとはいけないと考えているので、少しずつ整えていきたい。

島案内は、他にもみえるのか、複数人みえるとすれば連携体制はどうなっているのか教えてください。

→島の案内をしているのは自分のみで、SNSを見た方からメッセージをもらって案内の予定を調整している。月に約100人案内しており、口コミで案内希望が増えてきている。

案内時は「在りのまま」の暮らしを感じてもらおうとありますが、あえて言うなら神島に必要と感じるものはありますか、教えてください。

→島に来る方は、あたり一面の大海原の景色を必ず見に行く。島民でごみ拾いや草刈りを行っているが、段々と木が伸びてきて、危険な箇所も出てきており、島民の力では限界を感じる。景色は大事なので、行政にはそのあたりのフォローをお願いしたい。

宿泊された外国人旅行者のリピート率を教えてください。

→リピート率は分からないが、同じエージェントで台湾からのツアー客が毎月2～3本、来ている。そのツアーは、御座の真珠の取り出し・アクセサリーづくりなど、日本のツアーも行かないようなところへ行っていると聞き、少し驚いた。同じエージェントから送客が続いているので、好評だと思っている。

恋人の聖地や恋愛成就是強いコンテンツだと思います。あとは島全体のコーディネートや島民の皆さんの意識が重要と考えますが現状の取組を教えてください。

→恋人の聖地の承認をとり、渡鹿野の、「ハートアイランド渡鹿野島」の頭に「恋人の聖地」とつけることができた。その前に、ハートアイランドという名称で、観光の名前にしていこうということで始めたので、ハートにまつわる取り組みを幾つかした。代表的なもの一つ目は、島の神社の絵馬を、ハートの形をしたボードやヒオウギ貝をハート型に加工して用意した。二つ目は、船着き場にハート型のウェルカムボードを作った。三つ目は、オリジナルキャラクター「わたるくん」と「かのんちゃん」を作ってぬいぐるみやのぼりを作った。四つ目はハート型のイルミネーションを作った。以前に、男性アイドルグループ「NEWS」がテレビ番組の企画で渡鹿野に来島し、島の活性化に寄与し

たいということで、インスタ映えのイルミネーションの撮影スポットを作ってもらった。4年程好評であったが、草臥れてしまったので外した。何かイベントをやるとなれば、ハートをモチーフにグッズを作りたい。

島民の皆さんの意識は重要なので、取り組みを常に回覧板にして、住民の方々に情報提供している。島民の皆さんも全部、理解してもらっていると考えている。

《参加者の取り組み（地域活性化）》

島外住民（県内・県外等）への離島の魅力発信や集客の取組状況を教えてください。

→離島未来舎は法人を令和7年8月に立ち上げたばかり。離島の魅力発信や集客の取り組みについては、鳥羽市、観光協会、島の旅社がやっている。離島未来舎としては国の補助事業を中心にやっており、依頼があれば、島を紹介する雑誌への寄稿や、島外の方のアテンドもたまに受けている。今後、離島未来舎の役割は、観光よりは関係人口を呼び込むことだと考えている。島に来てもらって、見て、食べて帰ってもらおうというよりは、島に来てもらって、以後関わり続けてもらおうという設計が必要と考える。東京にある公益財団法人日本離島センターが主催している離島関係のイベントに出展しながら、離島の魅力を効果的に発信していきたい。

答志島等を活性化するにあたって、テーマやコンセプトがあれば教えてください。

→離島未来舎の役割は、関係人口を呼び込むことだと考える。島外の方へ島に関わり続けていただくためには、島のリアルな部分を見せることが大事だと考えており、例えば島民との関係性や、離島の人口減少などの課題等を、リアルに見て、感じて、体験してもらい、島の人と一緒に島を活性化できれば最高だと考える。

二地域居住の進捗状況について教えてください。

→国の補助事業の中で、この12月から1月にかけて体験ツアーを行った。体験者の行動を主催者が決めるのではなく、ほぼ自由に過ごしてもらった。関東から2家族、中部エリア・東海エリアから2家族4組を受け入れた。何が良かったかと聞いたところ、島の人たちとの関係性が一番良かったと話を聞いたので、離島地域は二地域居住の候補地となる可能性があると感じた。

例えば二地域居住を受け入れても、滞在用の住居の不足、旅費等の経済的な負担、仕事との両立など、課題がたくさんある。遠方から来てもらうなら、2週間から1カ月の中長期の体験プランや、地域の課題、例えば祭りに人が足りないから手伝いに来てほしいというような、地域課題の解決型の体験プランを作りながら、二地域居住の可能性を広げていきたい。

島文化や伝統を守るうえで天王祭は重要と考えますが、担い手確保として島外者のボランティア募集等はされているのか教えてください。

→もちろん、ボランティアを募集してきた。「きた」というのは、コロナ禍を機に止めてしまったから。祭典保存会という団体を作り、会が主体になって祭りを運営してきたが、平成23年に会員が減少したため、解散した。これではいかんということで、それから

7年間の7回は、役員で運営した。当然、人手が足りないので、周りの地域から人を借りてお願いし、市役所の職員にも協力してもらい、実施した。1度は、チラシを作り市役所にも配って磯部町全体で回覧し、15人ほどボランティアで手伝いに来てくれた。ただ、準備と片付けに人手が必要となる中で、住民の人数が足りなくなり、今後の継続は難しいということと、コロナ禍ということで、それを機会にお手上げしようとなり、現在は神事だけ実施している。

《地域おこし協力隊》

地域おこし協力隊は費用対効果が低いことや、移住を増やすことより関係人口を増やすことが重要と思われている理由を教えてください。

→定住人口を増やすことよりも、関係人口を増やすことが重要と考える。それは何といても船を維持するため。減便や船の運賃値上げは、もちろん観光客に影響がある。自分としては、帰省客も含め島出身の人たちが、いつでも帰ってこられるような状態を維持したいと考えている。9.9の人が島から出て、0.1が島に残っている、そんな状況では、移住者も大事だが、もしかしたら自分のように、親がまだ健在のうちに、実家を何とかしようと思って島に戻ってくる人間が1人でもいるかもしれない。関係人口を増やしていくことをやっていきたい。

地域おこし協力隊の難しさについて教えてください。

→地域おこし協力隊が難しいわけではなくて、地域おこし協力隊に与える命題が難しい。なぜかというと、狙いは地域活性化であるが、島はどんどん人口が減ってきていて、若い人がいないから。そのような状況では、地域活性化は非常に難しい。事業をすることによって、人が呼べるか、新たに事業が増えるか、二つのどちらかを期待していたが、思うようにいかない。地域おこし協力隊に1番求めるところは、やはり、地域の1人になること。地域の人と交流を重ねて、自分の思い、希望、住民の要望は何かということ、自分が島の人間になっていくことで分かってくる。自分と、例えば地区役員とだけで話していたのでは、進まない。地域おこし協力隊もそれぞれ性格があるので、人とのコミュニケーション上手な人ばかりは来ない。そこが一番難しかった。

《その他》

離島未来舎との連携体制について教えてください。

→離島未来舎とは互いによく知っている仲。連携の詳細な話はまだできていないので、これから私たちも一緒になってできることから始めていきたい。

→島の旅社推進協議会との連携はうまくいっていると思う。島の旅社は、島の人間には真似できない、島内案内のノウハウを持っている。アテンドは島の旅社に任せるなど、役割分担をしっかりとしながら、連携して一緒に盛り上げていきたい。

「おてつたび」の現状を教えてください。

→「おてつたび」は、鳥羽市が中心となって利用促進を図っている。昨日鳥羽市に確認したところ、鳥羽の離島では答志島の四つの旅館が「おてつたび」を活用しており、年末年始の繁忙期に、関東圏の学生から応募があり、今も数件の応募があって日程調整を行っているという。今、「おてつたび」を活用しているのは旅館だけなので、例えば水産業等、他にも人材を求めている業種があるので、そういったところをヒアリングしていきながら、行政に繋ぎ、人材不足を補うような一助になればと思っている。

※おてつたび：働きながら旅をしたい人と人手不足に悩む地域をつなぐ、株式会社おてつたびによる人材マッチングサービスのこと。「お手伝い」と「旅」をかけあわせた造語。

→令和8年4月から離島の定期船は減便になるが、神島は増便になった。最終便が神島に着いたら、これが一旦本土の佐田浜港に戻るの、神島から市内に行く船が1便増える。

その中で、鳥羽市本土から島に行く^{ゼロびん}0便に乗船できないことになっている。島民のみや、荷物は載せられないなどの制限付きでいいので、0便に乗らせてほしい。離島に朝日を見に行きたいという観光客はととても多いので、チャンスでもある。何とか考えてほしい。

○意見交換

《参加者の取り組み（観光）》

離島は自然環境が豊かで、島の時間を感じて心が安らぐ。答志島を訪れた際、楽しく路地を歩いていただけでかなりの歩数を歩いていた。例えば渡鹿野島は、ハートアイランドなので、ハートの形に歩いてその軌跡をデジタルで追うようなウォーキングイベントを打てるのではないかと。各島での健康につながるような取り組みについてお聞きしたい。

→答志島では、案内の中で自然の漁村のありのままを見せて、当時の道具の使い方等の話をする。過去、ウェルネスの旅というのが流行した際に、健康促進関係の事業があったようだ。以前は鳥羽市内の中学校のマラソン大会を答志でもやっていたが、人が減り、やらなくなった。お客様に対しての健康をアピールしたものは、今はしていないが今後考えていきたい。

→自分1人で島案内をしていて、リピーターの方が増えている。初回は一緒になって汗をかきながら島の中を案内する。約3.9キロの小さな島で、鳥羽市が作った観光マップだと概ね2時間のコースで歩けるが、私が説明すると、3～4時間のコースを大体5～6回来てもらわないと、島を1周できないようなコースを作ったつもり。だからリピーターが増えている。自分の案内なしで、朝日や夕日の見えるところで、ゆっくりと過ごし、非日常を味わってリフレッシュする人もいる。

→かなり前に（三重県の）南部地域振興局の事業で、渡鹿野島の活性化を四日市大学の学生が企画するという中で「ハートのかけらウォーキング」をやっていた。再開できない

ことはないと思う。また、島の中にある小さい無人島の居守島^{いもりじま}には、「はくささん」という歯の神様が祀られている。歯の神様は、非常に珍しいらしく、他県の歯科医師会の方が拝みに来ていた。居守島に渡るには栈橋が要るので、渡鹿野島で遥拝所を設けて、神社の維持費にしてはという案が四日市大学の学生から出された。しかし、無人島に行くにも道が整備されていないので、何とかしなければならない。

→島で保有する有線で15時に自動的にラジオ体操の曲が流れるようにして、島民でラジオ体操していたが、しばらくして誰も出てこなくなって止めてしまった。先ほど、議員から、島の周囲をハートに回ったらどうかという話があった。実はそれをしたくて、島を1周できる道路を作りたいと思うが、渡鹿野の場合は、雑木が非常に多く端まで行けず、われわれの力ではどうしてもできない。日間賀島は1周できて、自転車大会をしていて、いいなと思う。歯の神様「はくささん」については、区の役員でそこに至る道を整備しようとしたことがあったが、役員も本業の傍らでやっているので断念した。本当は、「はくささん」を開発して、写真を撮ってSNSで流すなりして広めたら、観光名所になると思っているが、われわれの力では開発はできず断念している。

観光の業としての考え方をお聞きしたい。観光ツアーを無料でされているとのことで、Instagramを見ると本当にすごい絶景ツアーをされていると思う一方、本当に無料でいいのかと思う。また、島の体験ツアーの取り組みも、安い感じがする。ツアーの価値全体を上げていくための努力も必要だし、県や市も、その地域の観光を底上げし、もっと勝負をしていくということが必要。今後の戦略についてお聞きしたい。

→今のところは1人でやっているのですが、案内は無料でしているが、どうしてもという方には塩を買っていただいているので正直、無料ではない。今神島のことで話題にあがるのは、かつて三島由紀夫が滞在した寺田宗一郎について。自分の親戚筋の家であるが、管理する親族が島外に出てしまい、ずっと空き家になっている。しかし、鳥羽市も商工会も購入は難しいということで、近いうちにNPO法人を立ち上げて、自分が関わって運営していきたいと考えている。その時に初めて、島の案内をきちんと業として整理したいと思っている。

《参加者の取り組み（地域活性化）》

手がける「神島の塩」の売れ行きは。

→縁のある業者のPRにもなればと思い、さまざまな種類を作っていたが、正直種類を作りすぎている感はある。普通の塩はネット販売しているが、フレーバーの塩は鳥羽マルシェだけに置いている。1人でやっていることを良い意味で利用して、塩を目的に神島に来てほしいということを願って、塩を作っている。

《船》

結局、定期船の減便が一番住民の方の生活に大きな影響が出ると思う。減便についてもう少し具体的に聞かせていただきたい。

→令和8年度は、答志島だと1便減る。今回はそれほど大きな影響はないが、5年後には機関長という仕事の人随分減る見込みとのことで、その方たちを確保できないともっと減便というほうに進んでいくようだ。そうならないように、4島の離島の総意で、みんなで市に訴えて、市から県へ、県から国へという形で、一致団結しないとこの問題の解決は難しいと思う。減便となるともっと生活が難しくなるので、とても危機感がある。もともとは離島出発の始発だったものが、今度は鳥羽市本土（佐田浜港）からの始発になった。定期船に関わる体制自体が、今後厳しい状況になっていくと聞いているので、そうならないように、皆さんに力を貸していただきたい。

→渡鹿野島と対岸を結ぶ渡船を扱う業者3社のうち、1軒が辞めることになった。今まで3社が1週間交替で渡船をやってくれていたが、2社ではやりにくいとのこと。令和8年度からの、国の運行管理体制の強化の影響で、今後、渡船に個人業者が新規参入することができなくなる。なぜかという、船長以外に実務経験が1年以上いる運行管理者を置く必要ができたから。8年度の1年間だけは、経過措置になっている。今後渡船するには、船長と運行管理者という2人がいないと、その事業はできないということになった。新規参入できないので、志摩市にそこをフォローしてもらおうと思っても、志摩市も実務経験がないから運行管理者になれない。そこが本当に悩んでいる。一番のライフラインが頼りないと、安心して生活できない。

先ほど、^{ゼロびん}0便という話がでたが、0便というのは、本土から離島のほうへ行くのが0便という認識で相違ないか。もともと0便には人が乗ってなかったのに、乗せられるようにしてほしいことか。

→今までは、各離島へ最終便が出たら、定期船はその離島に停泊して、次の日の朝になったらそこから始発になった。それが船員の確保を理由に、最終便で離島にいった船が、一旦全部、ハブのように（鳥羽市本土の）佐田浜港に戻るようにならなくなった。今度は島から出る1便、始発便のために、例えば、神島でいうと、この4月から神島発鳥羽行の始発に行くのが6時50分だが、そうすると、鳥羽市本土の佐田浜港からは6時頃に、その船が神島に向かう。これが^{ゼロびん}「0便」。この0便に、島の人に乗ることができないと言われた。今多くの方を案内する中で、朝日が見たいと言う方が多い。朝日を見たいから神島に泊まりたいが、もう宿は一つしかない。となると、鳥羽駅周辺の宿に泊まるが、今の時刻表だと朝日が昇る瞬間は見られない。0便に人を乗せるとなれば、切符や荷物の扱いなど、船員の確保も必要となることは理解しているが、カラの船を動かすよりは少しでも人を乗せたほうが赤字解消になると考える。例えば、切符を事前に購入した者のみや荷物の送りを制限するなど、できるようにする工夫があると思う。ぜひとも検討していただきたいという意図で発言した。

《参考にしている取り組み》

皆さんが参考にしている地域があれば、教えていただきたい。われわれも、先進の部分を勉強しながら、いかに取り入れていくか、考えながら動いていく必要がある。

→愛知県の日間賀島のアートの事例。大学生などが協力しているという事例を見に行きたい。離島での体験ツアーは天気左右されるものが多いので、雨でもできる体験が必要。島へ来た子どもたちには、勉強よりも楽しんでもらうこと大切に思っているので、アイランダー等の離島のイベントに行ったときも、他島の事例を参考にしている

→約2年前に島へ戻って、塩小屋を立てて塩作りを始めた。その際、沖縄県くだけしまの久高島に神島との共通点を見出して、勉強した。面積は神島の3倍ぐらい、人口は同じ250人ぐらい、神の島と呼ばれている。久高島は、6万人でオーバーツーリズムと言われているが、それを神島で考えると、平日で100人ぐらい、土日祝で200人ぐらい来たら、もうオーバーツーリズムになる。神島と久高島との違いは、久高島は立入禁止区域がすごく多い一方、神島は意外と立入禁止区域は多くない。ただ、島民の人と一緒にいけばOK、島外の人だけで勝手に行くとうなっても知らんぞ、というような風潮もあるので、自分はそこを良い意味で利用している。島内の案内時に、「この場所は、自分以外でもいいから島民の方と一緒にいかないと来れない場所。勝手に行ったら後からえらいことになる。」と一言釘を刺す。景観もそうだが、自分の先人が築き上げたものを、ファッション感覚で崩したくないという思いから。

《その他》

→バリアフリー整備をしないと観光客が来ない。一番肝心なのが、船の乗り降り、段差ができてしまうので、浮棧橋が必要だが、本土側で反対されて長年話が進まない。

→「離島である」ことを理由に、手に入らないものや割増料金がかかるサービスも多い。
(例：特Aの重油など) これを離島のハンデとして認識してほしい。

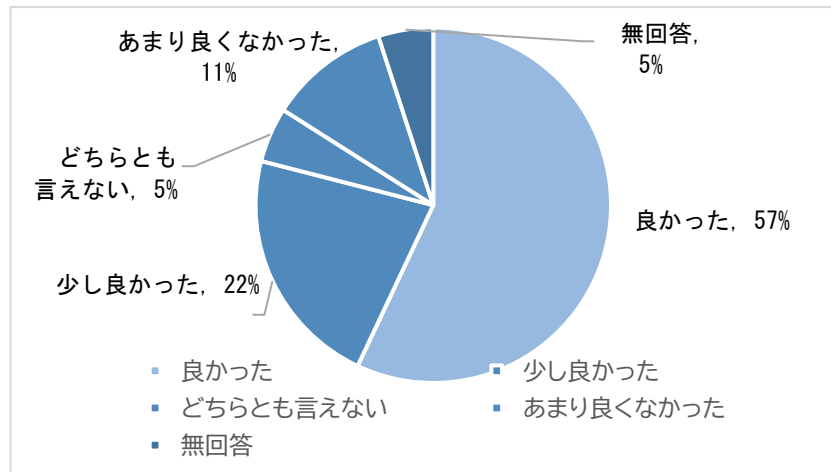
令和7年度 第2回「みえ現場 de 県議会」
離島の振興 ～「観光」による課題解決を目指して～

アンケート結果

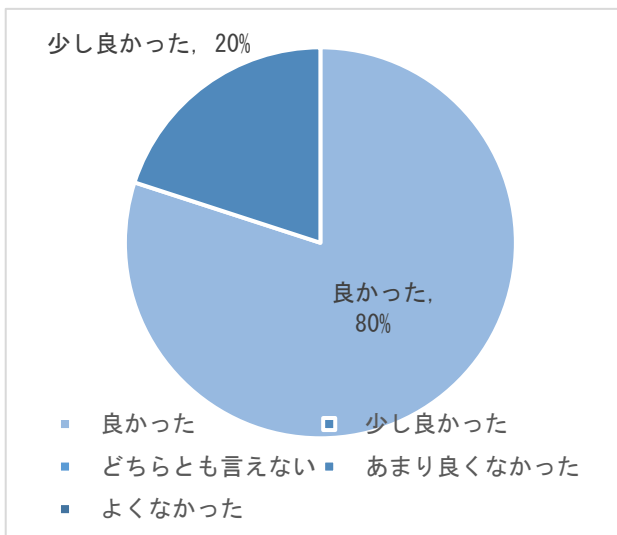
- 当日の参加者・参加議員・傍聴者 35人
 《内訳》 ・参加者 5人
 ・参加議員 13人
 ・傍聴者 17人
- アンケート回答者 19人
 《内訳》 ・参加者 5人 (回答率 100%)
 ・傍聴者 14人 (回答率 82%)

Q1 本日の会議の感想をお聞かせください。

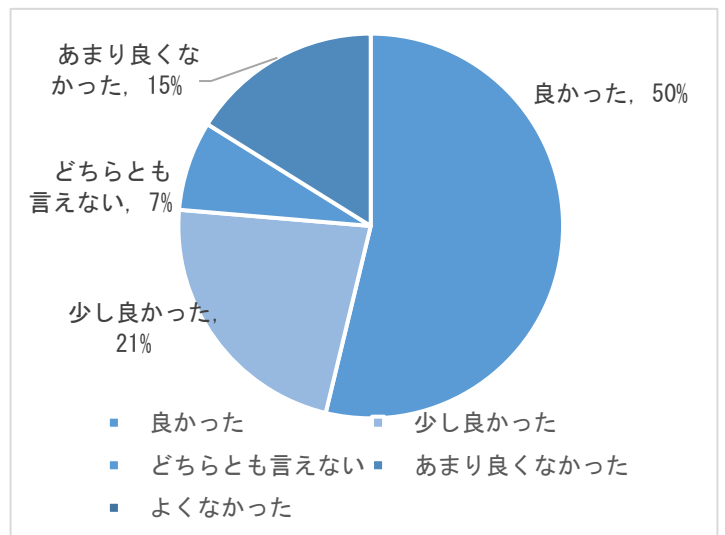
<全体（参加者+傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>



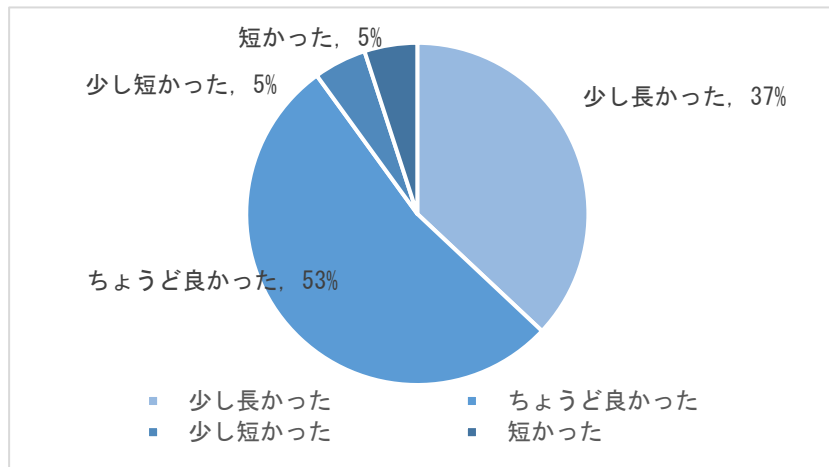
Q2 本日の会議について、お気づきの点がございましたらご記入ください。

(○：参加者、●傍聴者)

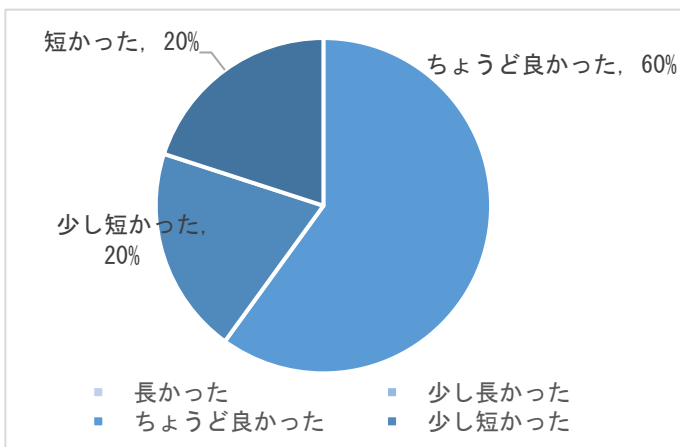
- 離島の問題点について聞いて載って良かったです。
- 参加いただいた県議の皆さんに離島の現状を直接聞いていただいて良かったです。問題解決へのご協力をお願いします。
- 事前に内容を知らせてほしかった。
- 現場の声が聞けたのでとても良かった。みえ現場 de 県議会続けていただきたい。
- 各地域での課題がよくわかった。県議の方からも人口減少に対する対応策をもっと聞けたらよかった。
- 当事者でしか分からない問題点が聞けて良かった。特に神島で頑張っている寺田さんの話がもっと聞きたかった。
- 参加者の発言がその時のテーマ外を長々話す場面があったにも関わらず座長がコントロールしなかったのが残念でした。
- 進行管理をお願いします。事前調整をしっかりとせつかくの県議の方の時間ももったいたないです。
- タイムスケジュールがグダグダ。

Q3 本日の会議の時間の長さについて、適切であったかお聞かせください。

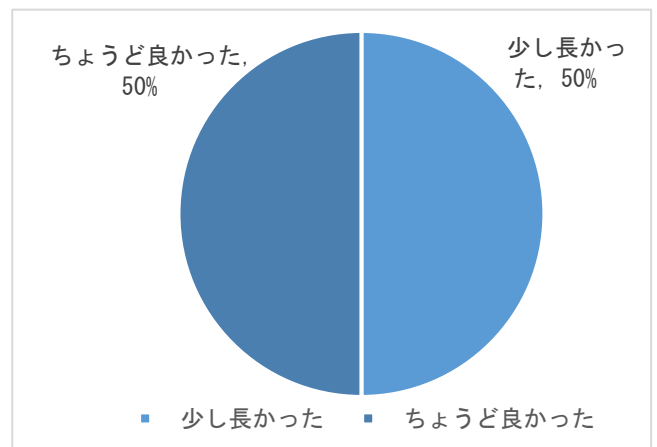
＜全体（参加者+傍聴者）＞



＜参加者＞



＜傍聴者＞



Q4 今後の「みえ現場 de 県議会」の開催テーマ・開催場所などについて、
ご提案がございましたらご記入ください。

(○：参加者、●傍聴者)

- 今日は観光に関することでしたが「問題点等について」の件で開いて載けるとありがたい。
- 質問形式の時間に意見交換の時間がもう少しあった方が良いと感じました。
- テーマをしぼって現場調査をした後に会議をしたら13時～17時 4時間位
- フリーの意見交換の時間を長く
- 各人の話す時間の決めた方が良いのでは
- 今後も県内地域で活躍している県民の声を聞いていただき県議会の中で議論いただきたい。
- 三重県の中で鳥羽市は特に人口減少が大きな課題です。今年3月で加茂中学校が閉校します。出生数R7年2月現在29名。子どもの数が減ると一機に人口減となり風光明媚で海、山、食（うまし国）都会の方がこちらへ来てほしい。
- 志摩高校が28年度より生徒募集停止というニュースがありました。少子化により閉校や統合、それに伴う不便（登校距離の増加、部活動の種類減少など）があります。あり方についてのテーマをお願いしたいです。
- 太陽光発電普及の影で苦しめられている県民の苦悩と対策。
- 磯焼けの問題をテーマにして水産業を生業にしている人との会を開いて欲しい。
- 少子高齢化により伝統文化がどんどんなくなっているのを、先進的にやっているところ。